

	<p>2015年 11月15日 第111号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会事務局</p> <p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/ E-mail : mizumidori@nifty.com 〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124</p>
---	---

再生中のトンボ池に来た生き物

トンボ池に流入する水があったり、なかったりが続き、ついに干上がってしまいましたが、湧水水路の工事が終ってトンボ池に湧水が流れ込んだのは、5月末でした。

16年前（1999年春）に最初につくったトンボ池は、満々と水をたたえ、木々に囲まれた静かな自然の池に見えました。が、ザリガニやペット、余所でとってきた魚等を放され、ザリガニ



が繁殖し、水の中はトンボのヤゴも住めない、トンボ池とは言えない池でした。会では試行錯誤で様々な取り組みをしてきましたが、ボランティアの力だけではうまくいきません。そして水路の漏水がいよいよひどくなったとき、区（環境課）ではトンボ池を廃止にせず、池を再生するために水路の工事費を計上されました。そして私たちもこれまでの経験を生かして、トンボ池の再生に取り組むことになりました。

12月の作業でだいたいの形がで

きあがる予定なので、トンボ池のコンセプトは、次号に紹介することとし、ここでは春からトンボ池で観察した生き物を紹介します。

池が干上がって草がぼうぼうの時は、カナヘビや、カマキリ、クモ、アブなど肉食の昆虫がいっぱいいました。エサになる虫たちが多いのでしょう。

昨年小さな棚田をつくるために干上がった池底を掘り返すと、なんと卵をもったザリガニが出てきました。1年くらい水がなくても生きてるすごい生命力、なんて感心してられない、手強い相手です。

今年の6月、湧水が流れ込んで湿地らしくなると、早速



オオシオカラトンボのオスが来て、水の上を行ったり来たり、縄張りのパトロールをしています。

水の底や土手にザリガニの巣穴がいくつもできました。でも姿は見えません。水が澄んでいるため昼間は泥の中にいるのでしょうか。なぜかメダカやクチボソのような魚の姿も見えます（早速入れた人がいる！）。

9月に入ると、長靴では入れないほどの深い池になり、トラップ（カニカゴ）を仕掛けてみたら、大きなザリガニがかかり、クロスジギンヤンマのヤゴも入っていました。

10月、水の中の生き物調査では、クロスジギンヤンマのヤゴ7匹、トンボのヤゴ4匹（実際はもっといた）、エビ（ヌマエビ？）4匹、ヒメダカ（死骸）、ウシガエル。そして大小のザリガニ。干上がった状態が2年ほど続き、水が入ってたった5ヶ月弱で、ザリガニは大人から赤ちゃんまでいて、彼らの生活が順調であることがわかります。恐るべし。

水辺にはアキアカネ、コノシメトンボ（リスアカネ？）が行き交い、岸辺にはモノサシトンボが止まっていました。

ザリガニがいても、ザリガニから身を隠す水草を育て、ヤゴも生きていける環境を整えることがこれからのテーマです。

新荒川大橋近くの荒川のビオトープ

荒川河川敷にあるビオトープは、広々として川がすぐそばに見えて、空は広く、清清します。たまには赤塚のビオトープから離れて河川敷のビオトープを見ようと出かけました。今回は板橋区のビオトープ（生物生態園）ではなく、北区にある「子どもの水辺」です。赤羽駅から徒歩20分、土手からも近く、野球場のすぐ裏にあります。ゆっくりじっくり見ると楽しめます。

9月23日（お彼岸）に行ったときは上天気で、トンボが飛び交い、子ども達が走り回り、生き物をすくい（ウシガエルのオタマジャクシが多かった）、「子どもの水辺」を楽しんでいました。こんな草っ原っていいですねえ。

1ヶ月後の10月31日、会の仲間と出かけたときは、あいにくの寒い曇り空で、子ども達の姿は見られませんでした。コサギが野球場の地面すれすれを飛び、川からアオサギ（？）が飛び立ち、池にはカモ（ヒドリガモ）がいました。スズメ、ドバト、ムクドリなどなじみの鳥の他に、私の知らない河原の野鳥もいました。

これから冬に向かうというのに、季節外れのホトケノザのピンクの花が絨毯のように咲き、ジシバリが黄色い花をつけていました。あっ、それから虫ではイナゴとムラサキツバメ、平田さんが何かの繭を見つけました。川縁の道では釣をしている人。





ビオトープのとなりには、菖蒲田があり、周りにヒガンバナが植えられていて、これはちょっと違和感がありました。子どもの水辺は、市民グループが管理していて、観察会やゴミ拾い等をしているということです。

板橋区域の荒川ビオトープ（生物生態園や隣の自然地）でも市民グループ主催でゴミ拾いをしています。こちらは、土手近くは住宅地と言うより工場が多く、

広い河川敷にあるビオトープもまた広い。この贅沢な広さと不便さが特徴です。自然地は広ければ広いほどよいのですが、ちょっと立ち寄りにくいし、行政はもてあまし気味だし、市民で管理するのも大変。

最近の荒川の事情はよくわかりませんが、「河川敷は有効に活用されねばならない」という掟があるようで、区民の憩いの場や子ども達の遊ぶ場所（安全も考えて！）、あるいは（経費をかけずに）市民ボランティアによる自然管理や観察会などで賑わうことが期待されているようです。広大で不便な場所にある河川敷、大雨が降ると自然の威力を見せつけられる河川敷は、無理に活用しようとせず、河原の動植物のための場所としてそっとしておくのがよいように私は思うのですが・・・（坂本 郁子）

観察と活動の記録

9月12日（土）トンボ池 水深30cm以上

フェンス際のクズ等ツル植物を抜き取り、小池のアシカキ刈り取り、水際のクズ等も除去、ザリガニトラップ設置

9月26日（土）トンボ池 フェンス際草刈、トラップ回収（設置期間が長かったためあまり回収できず）、ザリガニ大1、クロスジギンヤンマヤゴ1 リスアカネ（？）、トラップをかける
バッタ広場の観察

クズ繁茂 オオカマキリ（多）、ナガコガネグモ、ジョロウグモ（多）、オンブバッタ、アキアカネ、トビイロスズメ幼（ヒメ）ジュウジナガカメムシ幼（多、3カ所）、カナヘビ（幼体）、夏に多かったショウリョウバッタ見当たらず。ヌスビトハギ花（アレチヌスビトハギ見当たらず）、ヒメシソ花、キンミズヒキ花、

ミニトンボ池 ザリガニ大繁殖。大16、中41、小39

9月30日（水）トンボ池

アキアカネ多数、トラップ回収（ザリガニ大2、小1）右の池にザリガニ多い

ミニトンボ池ザリガニ捕獲（大1、中14、小47）

10月16日（金）—17日（土）トンボ池

トラップ3個設置ザリガニ小2

10月17日（土）トンボ池

手網等で調査 ザリガニ大4、中8、小多 クロスジギンヤンマヤゴ7、トンボヤゴ4、エビ4、ウシガエル

ミニトンボ池 ザリガニ中10、小67

10月24日（土）常緑樹（庭木）を伐採

活動のお知らせ

運営委員会：11月28日（土）、12月26日（土） 12：30～13：30
作業・観察会の後に報告や活動内容などを相談します（ラーメンしらかば）。
連絡先；坂本（090-4618-1295）
●会報の発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく
日時：1月16日（土） 12：30～
活動の問い合わせは事務局 瀬田（3969-7124）まで

活動予定いろいろ

1 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、大仏下ミニトンボ池、バッタ広場）の環境整備と観察 いずれもトンボ池前集合。

赤塚トンボ池の仕上げに入りますので、状況を見ながら手入れ内容を検討します。作業は1時間程度として、時間が許せば引き続き周辺や他のビオトープの観察をします。関心のある方は事務局にご連絡下さい。

11月28日（土） 10：00～11：00（手入れ） 11：00～12：00観察会
12月19日（土） 10：00～12：00 トン小池池づくり作業（小雨実施）
12月26日（土） 10：00～11：00（手入れ） 11：00～12：00観察会
1月16日（土） 10：00～11：00（手入れ） 11：00～12：00観察会
集合はいずれも赤塚トンボ池前（板橋区立美術館そば）

2 日暮台公園樹林地の観察プラスα

（樹林地内の推移と林縁植物を観察、様子を見て林縁の草取りなど）

12月5日（土）、1月9日（土）いずれも10：00～11：30
日暮台公園前集合

●ビオトープ管理のボランティア大歓迎

当会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、生き物のすめる水辺（赤塚トンボ池）や草地（赤塚公園バッタ広場）などの管理作業、自然樹林地の定点調査などを行っています。活動の内容は、身近な動植物を観察しながら、大きくなった木を切ったり、セイタカアワダチソウなどの外来植物や生育旺盛なササを刈り取ったり等々です。一緒にやりませんか。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）お送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。